



『ぼくのねこポー』大賞

相手の気持ちを考える

2年 N・Hさん

「先生に伝えておいてね。」

お母さんは、私にそう言った。けれど、先生に言うことを忘れてしまい、私ははじめてうそをついた。心の中がざわざわして、このままひみつにしたほうがいいのかとドキドキしてしまった。

私はこの本を読んで、その時の自分を思い出した。谷山君もお母さんや森君にポーのことを正直に話すまでは、私と同じ気持ちだったのかもしれない。私は、自分が忘れていたことをお母さんに注意されるんじゃないかと思ってうそをついた。けれど、うそをついたまましているとなんだか楽しくなくて、正直にお母さんに言った。そうすると、ギョッとしてくれてホッとした。谷山君のすごいところは、トムのことを、森君に会いたくない、ずなのにその気持ちをずっとがまんしていたのかもしれない、

と考えたところだ。私だったらそうできただろうか。きっと、自分のことしか考えられなくて、谷山君のように、相手のことを考えられなかったと思う。

この本の中で、トムが森君に会えて喜んでいたところを読むと、もしかしたら、生き物や物にも、人間と同じように、その立場に立って考えることが大切なのかもしれないと思った。私はお父さんとお母さんから

「人と物を大切にするように。」

とよく言われる。これからは谷山君のように相手や物の気持ちを考えて行動できるようになりたいなと思う。そのためにはまず、自分がされたらどう思うのかと考えてから相手の気持ちを考えていきたいと思う。

この本には、トムを森君にかえたところまでお話がかわっていたけれど、きつとそのあと谷山君は、お母さんにトムそっくりのねこをかってもらって、ポーと名前をつけて、いつまでも大切にしたいと思う。